

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

1 意見募集期間

平成22年10月13日(水)～平成22年11月12日(金)

2 意見の件数

124件

3 意見提出者数

68人

4 内容別の意見件数

項目	件数
素案全体に関する事項	5
I 「計画の策定にあたって」に関する事項	2
II 「小田原市の現状と課題」に関する事項	11
III 「計画の基本方針」に関する事項	5
IV 「基本的施策」に関する事項	14
V 「計画推進」に関する事項	1
その他	7
小田原女子短期大学 (食物栄養学科1年・2年生)	79

意見は「(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案)」の目次により分類いたしました。

5 意見及び市の考え方

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
1	—	素案全般	全体によくまとめられていてよかったです。	ご意見ありがとうございます。素案の修正なし
2			計画書がしっかり考案されているので、このまま進めて下さることを望みます。	ご意見ありがとうございます。素案の修正なし
3			<p>素案を拝読させていただきました。どの項目ももっともであり、現実をふまえており、食育の推進計画に異を唱えるものではありません。しかし余りに総花的であり、日本の未来のために間に合うのかなと思う。</p> <p>私は特に若い世代20才～40才位までの子供を育てる人達に的をしぼり、もっと徹底的に食への意識、嗜好、実際の関心、能力(食べ物をつくる、調理)等の調査をして欲しいと思う。悲惨な現実が浮かび上がり、暗い気持ちになると思う。</p>	<p>食育推進計画は、市民全体を対象としており、家庭だけでなく、社会全体で「食」のできる子育ての意識を高めることは大切です。特に子育て中の若い世代へ向けた食育は重要と考えていますので、施策の中で展開していくとともに、現状把握の調査も今後実施していきたいと考えています。</p> <p>素案の修正なし</p>
4			この計画にナマぬるさを感じるのは、私達をとりまく食に対して危機感を持ち、現状を少しでも改善しようとする指導力の不足を、自分を含めて感じるどころです。	<p>食に対して危機感を持ち、現状を少しでも改善しようとする指導力の強化は大切と考えております。</p> <p>小田原市のみで解決される課題だけではなく、国や県の食育推進計画と連携し、小田原市食育推進計画を推進していきます。素案の修正なし</p>
5			<p>素案はとてもわかりやすくまとまっていると思います。</p> <p>基本的施策の取組自体がそれぞれ独立して行われるのではなく、相互の関連を常に意識した施策にしてほしい。</p>	<p>食育推進計画を策定するにあたり、小田原市の庁内会議等で各課で所管する取組をまとめていく中で、連携の大切さを意識して施策展開を行っています。</p> <p>また、この計画を実行することで、様々な機関との連携をより深めていくことができると考えています。</p> <p>素案の修正なし</p>

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
6	2	I 計画の策定にあたって	「小田原市総合計画」について、簡単な解説があると分かりやすいかなと思います。	ご意見のとおり、小田原市総合計画について解説を追記します。 素案の修正案 ：素案 P2 に、注釈として「小田原市総合計画は、基本構想、基本計画及び実施計画をもって構成し、自治会連合会の区域ごとに作成した地域別計画と一対で市民のまちづくりを進めるものです。」とします。
7	2		6年間の計画とするとあるが、対象者が不明でつかみにくい。 （「食育関係者並びに市民」 P2 (3)、P14・15目標5、市民・団体・行政というあいまいない方でなく）、思い切っ て子供を育てる世代を対象をしぼって見たらどうでしょうか。 （前半3年間とか区切って）	食育推進計画は、食育の全体的な普及を目的としており、幅広い世代が対象となるため、子どもを育てる世代に絞るのは適切ではないと考えます。しかしながら、ご意見のとおり、家庭における食育推進は重要課題であり、施策展開を通して、子育て世代へのアプローチを行います。 素案の修正なし
8	3	II 小田原市の現状と課題	吹き出しの中の「鉢物」とは、「花木の鉢物」のことですか？	ご意見のとおり、花木類の鉢物です。 素案の修正案 ：「花木類」と修正します。（別表1）
9	4・5		伝統食品のところ、何か企業コマースのようになっていて勿体ないと感じました。P37の地域産物の紹介、P10の郷土料理などと合わせると、説得力があるように感じました。	ご意見のとおり、写真及び説明文を変更します。 素案の修正案 （別表2）
10	6～9		図表：図表のタイトルを強調するのではなく、その図表から分かること（推進計画作成者が伝えたいこと）をはっきり書いた方が分かりやすいと思います。たとえばP7の「朝食を毎日食べていますか」は「朝食の欠食が増えています」とか。	ご意見をいただきましたが、平成21年度全国学力・学習状況調査（小田原市）でもお示ししているのとおり、「食をめぐる現状と課題」の文中に傾向は述べられているので、原文のままでもよいと考えています。 素案の修正なし

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
1 1	7	II 小田原市の現状と課題	「朝食を～食べていますか」の問いに対する回答が「している」はおかしいかなと感じます。回答も「食べている」の方がすっきりすると思います。	平成21年度全国学力・学習状況調査(小田原市)からの出典物なので、表記を変えることは基本的にできないと考えています。 素案の修正なし
1 2	7		(2) 栄養バランス…「孤食」や「個食」の弊害は単に1人で食べる、別々のメニューを食べるという事実だけではなく、食に関していろいろな話(家族、世代間等)を聞くことが大切で毎日の積み重ねだと思う。	ご意見のとおり、食に関するコミュニケーションが家族や世代間で少なくなっている現状があります。説明文を次のとおり修正します。 素案の修正案 : P7(2)栄養バランス…については、説明文7行目について、「家庭内での <u>コミュニケーション</u> が減り、食生活の乱れが大きな問題になっています。」と修正します。
1 3	8		中段 小田原市の3大死因の心疾患は△を縁取りしたい。(表は△がわかるが下の内の△表示がみえない。)	ご意見のとおり、見やすいデータがなく、生活習慣病の増加を示すデータに変更します。 素案の修正案
1 4	8		3大死因のグラフだと「悪性新生物」以外は増加傾向が見られないので、余り説得力がないかなと思います。もう少し古いデータと現在の比較などで、はっきりと傾向が掴める方が良いでしょうに思いました。または死因ではなく糖尿病と脂質異常症増加のデータなど。	ご意見のとおり、生活習慣病の増加を示すデータに変更します。 素案の修正案 (別表3)
1 5	9		下段 農林業センサス 平成17年度は20年度に差し替えは可能ですか?(漁業センサスとそろえた方が良くと思う)	農林業センサスについては、5年に一度の調査であるため、現時点では17年度が最新です。 素案の修正なし

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
16	9	II 小田原市の現状と課題	漁業の図の意味が良く理解できませんでした。これは必要ですか？	<p>食料自給率の低下は、漁業の担い手の減少（経営対数）の影響もあるため、小田原も国と同様な傾向を示していることから、データは掲載しています。</p> <p>素案の修正なし</p>
17	10		ひつつみ汁は小田原の郷土料理なのでしょうか？	<p>ご意見のとおり、ひつつみ汁は、岩手県や青森県の南部の郷土料理です。小田原では、すいとんのようなイメージでとらえているのだと考えています。市民アンケート結果として、「ひつつみ汁」はそのまま記載します。</p> <p>素案の修正なし</p>
18	6～10		小田原市として問題点がもう少し明確になっていると説得力があるかなと思いました。比較できるようなデータがないことも承知していますが、たとえば「給食への地場産品の取り込み」などは神奈川県でも、全国でも、結果が出ていたように思います。県や全国に比べて小田原市は頑張っているのですから、そのあたりも書かれたら良いと思います。それを踏まえて、さらに頑張らましようとして声掛けをされたら宜しいのでしょうか？	<p>ご意見ありがとうございます。平成21年度の統計ができましたので、P9学校給食における県内地場産品（生鮮食料品）使用率を修正します。</p> <p>素案の修正案：平成21年度の県内地場産品（生産食品）使用率をグラフに追加します。</p> <p>（別表4）</p> <p>また、給食への地場産品の取り込みにつきましては、P21施策2 学校、保育所における食育の推進の中に現在実施している内容や推進について盛り込まれています。</p> <p>素案の修正なし</p>

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
19	11・28	Ⅲ 計画の基本方針	<p>実践する場の「職域」は、「職場」の方が一般的かと思いました。また、P28の施策3では、職場での取組は地域に含めています。何故でしょうか。ただ個人的には、食育は子どもだけが対象と考えていないので、P11のように「職域(または職場)」とはっきり謳った方が良いと思いました。</p>	<p>「職域」とは、地域にある団体や事業者等ととらえています。この計画は、国の食育基本計画や神奈川県食育推進計画をふまえた計画になっており、それに準じて、P28施策3は、地域における食生活改善のための取組の推進に含めています。</p> <p>素案の修正案: ①P11の「職域」の注釈には、「職域とは、地域の中の団体や事業者等ととらえています。」と追記します。</p>
20	12		<p>写真に説明があっても良いかなと思いました。たとえば、右上の「田んぼ」は、下の方に小さく「〇〇小学校6月の田植えにて」とか。他のページの写真も同様です。文章のタイトルで明確なもの以外は、小さくても良いので解説かタイトルを入れた方が分かりやすいと思います。</p>	<p>写真は、生産の場のイメージ図ですので、解説やタイトルは必要ないと考えています。</p> <p>素案の修正なし</p>
21	13		<p>目標1の中で「家庭、学校・保育所等、地域において」とありますが、ここに「職域(あるいは職場)」を入れた方が良いかなと思いました。</p>	<p>ご意見のとおり、職域でも行っているため、次のように修正します。</p> <p>素案の修正案: 「家庭、学校・保育所等、地域、職域において」と職域を追記します。</p>
22	15		<p>参考現状値の出典は、それぞれに入れた方が良いと思います。</p>	<p>ご意見のとおり、出典がそれぞれに分かるように表記します。</p> <p>素案の修正案 (別表5)</p>

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
23	16	Ⅲ 計画の基本方針	<p>3の「地域における～」の中で、「団体、事業者」の意味するものが分かりませんでした。7の「食品の安全性～」の中の団体も同様です。</p>	<p>3の「地域における～」の団体とは、地域のボランティア等の関係団体を指し、地域の中の事業者すべてを指します。</p> <p><u>素案の修正なし</u></p> <p>7の「食品の安全性～」について、暮らし安全課で行う情報提供に関しては、基本的には県と連携し、状況に応じて国民生活センター等の団体とも連携する可能性がありますが、主な連携先は県等のため、7の「食品の安全性～」については、次のように下線部を修正します。</p> <p><u>素案の修正案</u>：「食品の安全性や栄養に関する膨大な情報が提供される中、市民が正しい情報を適切に選別し活用する力を養えるよう、<u>県等</u>と連携し、食中毒の予防や食品の安全性、栄養に関する適切な情報を提供しています。」とします。</p>

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
24	17	IV 基本的施策	<p>基本的施策 施策1で書いてありますように!!食育とは「3回の食事がキッチンと食べられる」このことにつきると思います。それで食事が上手に食べられないことは、何をしてもできないと思う。ですから3回の食事はキッチンと食べるそのことによって、一日の生活リズムもスムーズに流れていくと思います。食べるということが、基本につながり命をも大切にすることもです。このように朝ごはんを食べることで、早寝早起きという規則正しい生活リズムが自然と身につくようになり、活動的な毎日を過ごすことができると思います。</p>	<p>ご意見のとおり、食べることは、生きる基本となり、命です。そのためには規則正しい食生活を身につけることが大切です。</p> <p>具体的には、施策1 P19 取組ウ ●家庭教育における知識の習得 において、「食に関する講話を通じて、基本的な食習慣の知識の習得を支援すること」を目標の一つとして施策を展開しています。施策2については、下線部を追記します。</p> <p>素案の修正案：●学校栄養職員・栄養教諭を中心とした、学校・家庭・地域への食育啓発</p> <p>説明文「学校栄養職員・栄養教諭が、食に関する年間指導計画に基づき、教科等と関連した食育授業を通じて、正しい食生活習慣の育成を図るとともに、保護者を対象とした給食試食会・学校保健委員会などの各種行事や給食だよりを通して家庭や地域に向けて食育を啓発します。また、学校給食が授業の生きた教材として活用できるよう献立を工夫しています。」とします。</p>
25	21		<p>P 2 1 : バスケット栽培とは何ですか?写真も分かりにくいです。</p>	<p>バスケット栽培について分かりやすく修正します。</p> <p>素案の修正案：バスケット部分がトリミングされているので、写真のカットを少し調整します。また、写真の下に『バスケット (買い物かご) を活用した野菜の栽培体験をする中学生』と記載します。</p> <p>(別表6)</p>

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
26	22～24	IV 基本的施策	<p>漁獲物で、小田原の食卓に上がらずに、飼料や肥料になってしまうものが少なくない。それらを積極的に学校給食などに活用したい。対象魚のメニュー開発と学校給食関係者への調理実習などを行い、低利用資源の活用を促す。</p>	<p>説明文を一部書き加えます。</p> <p>素案の修正案：</p> <p>P 2 2 取組イ施策 2 の学校、保育所等における食育の推進</p> <p>●地場産物を利用した学校給食の実施</p> <p>説明文「地元の農産物（たまねぎ、さといも、みかん、キウイ、ほうれん草、小松菜など）や水産物（アジ、かます、<u>その他大量に漁獲された魚、かまぼこ製品</u>）を積極的に給食に利用するとともに、小田原献立やかながわ産品食品デー、かまぼこ献立を実施し、児童生徒に生きた教材として学校給食を活用しています。また、学校給食講演会～」とします。</p> <p>(別表 7)</p>
27	25		<p>取組エの保育所等の「等」とは何ですか？乳児園も含めた「等」なのでしょうか？</p>	<p>保育所以外にも認定こども園などが含まれています。</p> <p>素案の修正なし</p>
28	29		<p>一番下の「生活習慣病を予防しましょう」という大きな文字の意味が分かりません。</p>	<p>次のとおり、修正します。</p> <p>素案の修正案：吹き出しをつける等、分かりやすい表現に修正します。</p> <p>(別表 8)</p>

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
29	32・33	IV 基本的施策	<p>小田原の水産物は、小田原の森があってこそ得られるものであることを教えたい。</p> <p>森と海の間伐や植樹の体験をさせ、小田原育ちなら、小学校、中学校時代に1回ずつは森に入って体で学ぶことを。また、海から陸や海岸を見て汽水域の大切さを感じ取るため、船に乗る事業も必須としたい。</p>	<p>森と海の間伐や植樹の体験等は大切と考えています。小学校の社会科の中、森と海の間伐や植樹の関係を学ぶ学習は位置づいています。</p> <p>体験活動については、各学校の実態に応じて行うこととしているため、今回の施策の表現は、このままにとどめさせていただきます。</p> <p>素案の修正なし</p> <p>森と海との関係や食循環を理解していただくため、森についてのイメージ図を付け加えます。</p> <p>素案の修正案: P12 生産からつながる食イメージ図に、森(植樹)の図を掲載します。(別表9)</p>
30	21~27		<p>食育推進計画を拝読して、目指す事柄は素晴らしいですが、理想論で済まされそうに感じてしまうようですが、もっと現実を見据えて戴きたい！近年、子どものアレルギー疾患を抱えている子どもの数が激増していると、報道された事がありました。そこで、小田原市内の子供の中で、食物アレルギー疾患を抱えている数は？どのくらいの割合なのか？</p> <p>また、内臓疾患などの食事療法を必要とされる子どもの状況をちゃんと把握しているのか？学校給食でこのような疾患がある子ども達への対応が、保育園・学校現場の給食などで対応</p>	<p>保育所では食物アレルギー疾患には、授乳期から、除去食・代替食の工夫をして対応していますので、その他の素案の施策の部分を次のとおり修正します。</p> <p>素案の修正案: ①と②</p> <p>①P18◆個別の健康相談・栄養相談の実施の部分に、病院と連携してアレルギーの子どもに対する栄養相談を実施している旨を書き添えます。</p>

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

30	21～27		<p>されているとは思えません。</p> <p>行政が推進して計画を立てていく中で、考えていかなければいけない事柄の中に、一番弱い立場を最優先に考える必要があります。健康で毎日を過ごしていく事が可能な方は、食育推進計画で構わないにしても、現実問題、上記の様な事柄は、子どもの置かれる環境では、全くと言っていいほど環境整備されていないのが実態です。病態栄養・臨床栄養など医療機関との連携が必要となることも踏まえて、見逃している食育推進計画に盛り込んで頂きたい。生物は毎日食べて生きていけないのは当然の事、だからこそ、毎日食する3度の食事こそ大切な生きる源！自分の健康は自分が一番分かっているようで、過信している！情報が錯綜している現代社会、偏った食生活・ダイエットなどによる様々な体などに支障が出てくる。その為にも、薬に頼らない食事を摂取する事は、幼い頃から正しく味覚を脳に植え付ける事から始まる、十分噛んで、味わいながら食事をする事、食べる事は楽しい事だけでなく、自分の体と会話しているはず！</p> <p>是非、食育推進計画には、子ども達に関わる施設・学校現場での学校給食において食事療法や食物アレルギーの子ども達が成長過程で支障が起きないように、アレルギー食品に代わる代替食事が出来て、十分栄養素が摂取出来るよう施策を考えて下さい！一人ひとりの子どもへの配慮をお願いします！</p>	<p>②P22 ●学校栄養職員・栄養教諭を中心とした、学校・家庭・地域への食育啓発に、現在の素案の説明文を文章の最後に付け加えます。</p> <p>説明文「肥満等の個別指導や栄養相談などマニュアルを活用して、各学校で検討委員会を設置し、学校の実情に添った個別の対応に努めています。学校と家庭との連絡を密にすることにより、除去食等の対応も実施します。」を追記します。</p>
----	-------	--	---	--

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
31	32・38	IV 基本的施策	<p>素案にも記されている通り、食育の必要性は現代の食の乱れ（個食、孤食、食べ残し、朝食の欠食）を改善すること。そのためには、自らの生産体験はもちろん、生産者との交流、地産地消をいかに市民に浸透させるかが重要なカギとなります。</p> <p>JAの進める食農教育は、農家、消費者、子どもたちなど地域が連携し、食と農の感動を発見し、共有する—といったスタンスの中で食農教育プランを実践しています。</p> <p>具体的には、①農業体験を通じた食農活動 ②地場農産物の学校給食への拡大 ③食に対する生活文化活動の強化 ④地産地消の拡大への取組 ⑤生産者・消費者との交流促進を主な骨子としており、本市もJAもめざすべき方向付けは同じと考えられます。特にJAでは現在、学童農園応援事業を進め、小学校に対し、種や苗、農業資材にかかる経費の一部助成を行い、必要な際は、地元農家の派遣も行っています。しかし、市内小学校の中には地域性的問題から、農園が設置できない小学校もあり、農業体験の場に格差が生じている部分が見受けられます。また、指導する教師にも農業体験に対する熱意、技術面で温度差があり、指導にあたる教師を一堂に集めた農業研修も今後、必要かと思われま。JAでは食農教育推進プロジェクトにより、JA内部における連携強化を図っておりますが、今後は各行政の食育担当者や栄養士などとの意見交換を踏まえ、外部団体との連携を図りたいと考えています。</p>	<p>学校農園の規模については、学校の実態に応じて様々であることは確かですが、中学校で実践されているバスケット栽培のように、栽培方法を工夫して行う等、学校の実態に即した取組が行われており、体験活動の中で、地域の農家の方などの協力を受けながらの取組を実施しています。施策で反映できる部分を次のとおり新たに取組を加えます。</p> <p>素案の修正案：P30 取組ア 関係者との連携による推進</p> <p>●生産者団体との連携による食育推進プロジェクトの実施</p> <p>説明文 「JAの進める食農教育推進プロジェクトと連携し、農家、消費者、子どもたちなど地域が一体化した活動を推進します。」を加えます。</p>

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
32	35	IV 基本的施策	<p>取組イ 地産地消の促進について</p> <p>大変良い事と賛同します。2、3年前にイチゴチャンネルにふる里の技術指導士として食と農(梅)で出演し、何度も放映されたので反響はありました。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。素案の修正なし</p>
33	35・37		<p>農業の栽培、生産部門で、市民がどういう体験をしてみたいか、農家においては主旨をもった体験の企画、調整を行い、生産から消費、環境、健康につなげた学習の機会をもってほしい。</p>	<p>趣旨をすでに施策に反映しています。 素案の修正なし</p>
34	36		<p>中段<事業例>で「おでんサミット」と「おでん祭り」が掲載されているが、どちらかを1つ削除して「小田原丼」を入れたらどうか。</p>	<p>「おでんサミット」は全国のふるさとおでんが来店し、「おでん祭り」は小田原おでんを楽しんでもらうお祭りで、内容が異なります。</p> <p>また、「おでんサミット」のコンテストで入賞した新作おでん種を「おでん祭り」で新商品として披露するなどの流れがあるため、両方の名前は掲載し、「小田原どん」事業を追加します。</p> <p>素案の修正案 (別表10)</p>

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
35	32・39	IV 基本的施策	昔は親から子へと伝承されていましたが、現在は子から親へとせがまれて体験農業を通じて食と農を知る時代となって来ている感じを受けます。この企画はとても大切な事だと思いますので、是非協力したいと思います。	ご意見ありがとうございます。素案の修正なし
36	21～31・32		施策2～4まで、実施しています。	ご意見ありがとうございます。素案の修正なし
37	39		食育基本法が成立する以前から実施しています。多くの場で伝えていきたいと思います。	ご意見ありがとうございます。素案の修正なし
38	41	V 計画推進	希望としては一枚に入るように計画推進への意気込みを伝えたく、活字を大きくしてはどうか。	ご意見のとおり、分かりやすく修正します。素案の修正案：レイアウトのタイトルを囲んだり、字を大きくしたりと表現方法を見直します。 素案の修正案 (別表11)

(仮称) 小田原市食育推進計画 (素案) についてのパブリックコメント実施結果

No	ページ	分類	素案に対する意見	修正案・反映状況
39	6	その他	2 小田原の食をめぐる現状 生産からつながる食の体験の具体的な実践として、ほうれん草を播き、収穫まで体験、さつま芋掘りの体験等を行っています。	ご意見ありがとうございます。具体的な活動について次のとおり修正します。 素案の修正案 : P 3 9 取組ア 伝統ある食文化の継承と促進
40	7		栄養バランスについて、幼稚園、小学校に出向き、手作り紙芝居を実践しています。	●郷土料理の継承 説明文「農産物の栽培から調理まで深い知識を持つ農家の方々を講師とし、料理教室等の講習会を開催するとともに、
41	9		食料自給率の低下について、朝ドレ、農協、アグリスクール等でお話している現状がある。	おだわらシルバー大学などの生涯学習関連事業において、各種団体の協力を得て、伝統的な食文化の継承に努めます。」
42	10		伝統的な郷土料理について ふるさと生活技術指導士等で一般参加を呼びかけ実施しています。	と修正します。
43	13		目標に上がっていることは、手作り紙芝居を通して実施しています。	
44	38・39		施策6 食文化の継承、展開のための活動の支援」に協力したいと思います。 梅全般、野菜の一部指導並びにその料理、加工、みかん、ブルーベリー等	
45	39		食文化の継承のため「ふるさとの生活技術指導士の会」があるので活用してほしい。	

小田原女子短期大学学生(食物栄養学科1年・2年生)のパブリックコメント実施結果

区分	No	意見内容	回答数	反映状況
素案に対する意見について	1	もっと簡単でわかり易く、すぐ読み終えそうな資料を用意する。カラーで写真やイラスト、図を多くする。	4	ダイジェスト版に反映します。
	2	小田原は市民全体的に健康や栄養について取組をすすめていて驚いた。地区に応じて栄養教室や減塩味噌汁試飲会の実施や、生活習慣病予防の改善などを団体で連携して活用していることに驚いた。	3	素案の修正なし
	3	高齢者のために食べやすい食事や栄養価の高い食事を考え、生活の楽しみを一つでも増やすことが大事だと思った。個別での栄養教育がされていることを知った。	2	素案の修正なし
	4	小田原の伝統食品の紹介や小田原市の食の現状が示されていて良かった。	2	素案の修正なし
	5	要点を簡潔に、主張は赤を使うと分かり易い。一般の方たちに理解できるような用語を使って伝えてほしい。	2	ダイジェスト版に反映します。
	6	覚え易いスローガンを子どもたちに募集してみてもいい。	2	キックオフイベントの中で考えます。
	7	目標の中に「バランスよく食べる」の項目がある。現状値は低いが、目標値に近づけるためには、朝ご飯を大人から子どもまで食べる事が重要。	1	素案の修正なし
	8	健康に配慮した食習慣を身につけ、バランス良く食べる事が大切さを知った。	1	素案の修正なし
	9	素案P11しっかり食べる力の10項目は文字をもう少し大きくしたほうが良い。	1	可能な範囲で修正します。
	10	素案のP17は分かりにくい。	1	レイアウトを修正します。
	11	素案を見てあまりにもきちんとまとめられている事に驚いた。	1	素案の修正なし
	12	伝統的な郷土料理の伝承をこれからも続けていくべきだと思う。	1	素案の修正なし
	13	食の安全・安心の大切さを意識した。	1	素案の修正なし
	14	挿絵を多くし、途中でクイズ形式などを取り入れるとよいのではないか。	1	ダイジェスト版に反映します。
	15	食育をわかり易く(イメージしやすく)楽しく、その日から実践できるようなポイントを入れるとよいのでは。	1	ダイジェスト版に反映します。
	16	食育をもっとわかり易く親しみやすいネーミングや内容にしてはどうか。	1	ダイジェスト版に反映します。
	17	紙の質をアップし、食べ物なのでカラーの方が興味が沸く。	1	ダイジェスト版に反映します。
	18	情報は変わるので、できるだけ正しい最新の情報が伝えるようにしてほしい。	1	ホームページ等を利用し、情報を提供します。
	19	素案を見ていて、保護者や子ども、老人向けの催事だけしかないように思える。	1	若い世代へのアプローチを考えます。
	20	具体的には、食事バランスガイドの普及が大事。	1	素案の修正なし

小田原女子短期大学学生(食物栄養学科1年・2年生)のパブリックコメント実施結果

区分	No	意見内容	回答数	反映状況
食育を推進するために大切なことは何か	21	小さい頃、自分で食材を育てたり、家畜の世話をしたり、育てることで、食物の成長過程をみることができ、自然とふれ合うことができる。食の大切さ、命をいただく重さを知る。	6	素案の修正なし
	22	小学校の食育は大切。給食はともよい食育の教材なので活用してほしい。特に、小田原でとれた地元の食材を使った給食の推進し、給食で多くの食材を知る機会にしてほしい。	4	素案の修正なし
	23	小さい頃からの食に関する意識を高めることが大事で、食育は環境によって左右される。親から与えてもらう食を楽しむこと、食を体験することが大事。	3	素案の修正なし
	24	学校における食育の充実を推進し、子どもだけでなく、保護者向けの食育も行う必要があるのではないかと。親や地域の大人を招待し、食育を再認識できる食育の場を設け、一緒に勉強することが大事。	3	素案の修正なし
	25	「いただきます」「ごちそうさま」。命を頂く有難さを大切にして、感謝する気持ちが大事。	3	素案の修正なし
	26	地域や学校での農業体験、調理体験、試食などのイベントを充実して設けることで、食への感謝の気持ちを育てることができる。	3	素案の修正なし
	27	学校の授業で地場産について知る機会が多くあれば良い。食育の学校の行事として考えてほしい。	2	素案の修正なし
	28	家族全員で食卓を囲むことは大事。子どもや家族を中心に食育に関わる活動を増やすことも必要。	2	素案の修正なし
	29	小学生に刷り込むように伝えるように、親世代にもしっかり食育を伝えていきたい。特に30代、40代の母親世代にまず、食の大切さを学んでほしい。	2	素案の修正なし
	30	食育で大切にしていきたいと思うことは、「地産地消の推進」	2	素案の修正なし
	31	市民・団体・行政が一体となり食育を推進	1	素案の修正なし
	32	地域・家庭における食育の推進	1	素案の修正なし
	33	食育の現場には、いつも笑顔があふれているというのが理想。	1	素案の修正なし
	34	食えることが生きることがイコールであることの自覚を持ってもらうことが大事。	1	素案の修正なし
	35	色々な食材とそのルーツを知ることが大事。	1	素案の修正なし
	36	残さず食べることができるように、調理法の工夫をする。	1	素案の修正なし
	37	お弁当の日を体験することで、好き嫌いがなくなる。	1	素案の修正なし
	38	小学生を中心に、稲刈り体験などを通じ、育てた喜びを味わうことができた。	1	素案の修正なし
	39	中学生や高校生の農業体験は食育の場として良いと思う。	1	素案の修正なし
	40	食えることが好きだと思える人を育て、食育について知ってもらいたい。	1	素案の修正なし

小田原女子短期大学学生(食物栄養学科1年・2年生)のパブリックコメント実施結果

区分	No	意見内容	回答数	反映状況
食育を推進するために大切なことは何か	41	生産者の苦労や大切さを知る機会があれば、食べ残しや好き嫌いがなくなってくれたらと思う。	1	素案の修正なし
	42	楽しいイベントで地場産のものを多く紹介することも良いと思う。生産者の苦労も分かち合うべき。	1	素案の修正なし
	43	給食などで、地場産物を取り入れるのも良いが、素になる材料が見えていなくては、食べるだけなので印象に残らないので、農業体験などを通して知ることが大事。	1	素案の修正なし
	44	小学生・中学生の食育は、大事だと考えている。地場産の食材を使用し、料理教室で学ぶ食育の推進。	1	素案の修正なし
	45	食育の中心は、保育園児や幼稚園児だと思う。	1	素案の修正なし
	46	食料自給率の問題を考えると、地域で採れるものをその地域で消費する地産地消の推進。その土地でとれたものを食することにより地域愛が芽生える。	1	素案の修正なし
	47	家庭によっては食事を満足にとれない家庭もある。食事を満足がいくまでおいしい食事を食べさせてあげたい。	1	素案の修正なし
	48	教育関係者の方に是非、食育に関心をもってほしい。	1	素案の修正なし
	49	食育について、身近なことだと分かってもらう為に、まずは、栄養士の教育を充実させ、教育し伝承すること、身近な友達に伝えること。	1	素案の修正なし
	50	栄養教諭を増やし、各学校に配置。	1	素案の修正なし
			79	

別表 1

Ⅱ 小田原市の現状と課題

1 小田原の風土と食

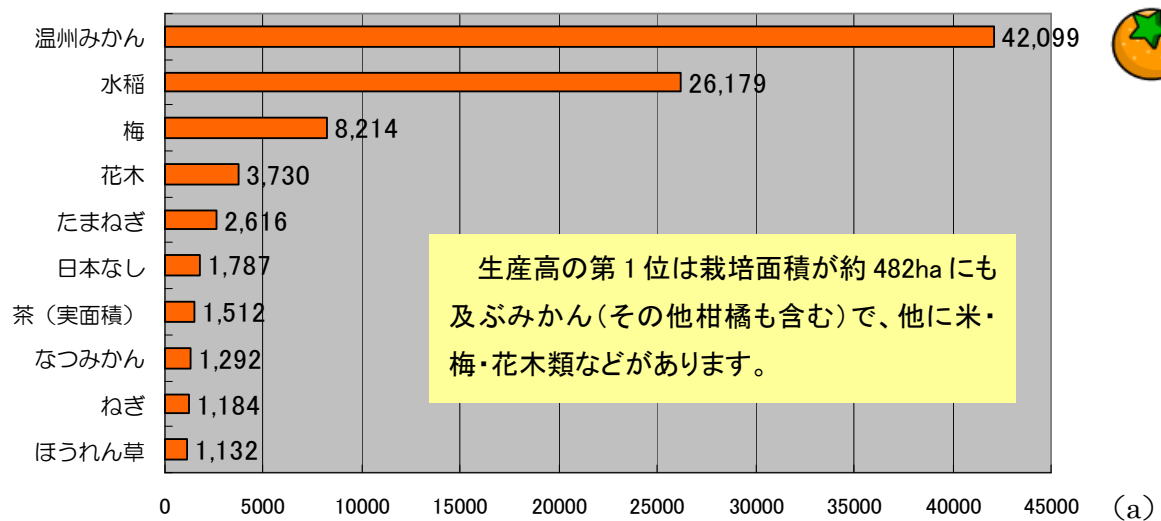
小田原の農業は、市の中心部を貫流する酒匂川流域に広がる水田地帯の稲作と西部及び南部の箱根山麓及び東部の曽我丘陵の樹園地のみかんを主体とした果樹に大別されます。

○ 小田原市農産物 収穫量



出典：平成18～19年神奈川県農林水産統計年報

○ 小田原市作物別作付（栽培）面積 上位10品目

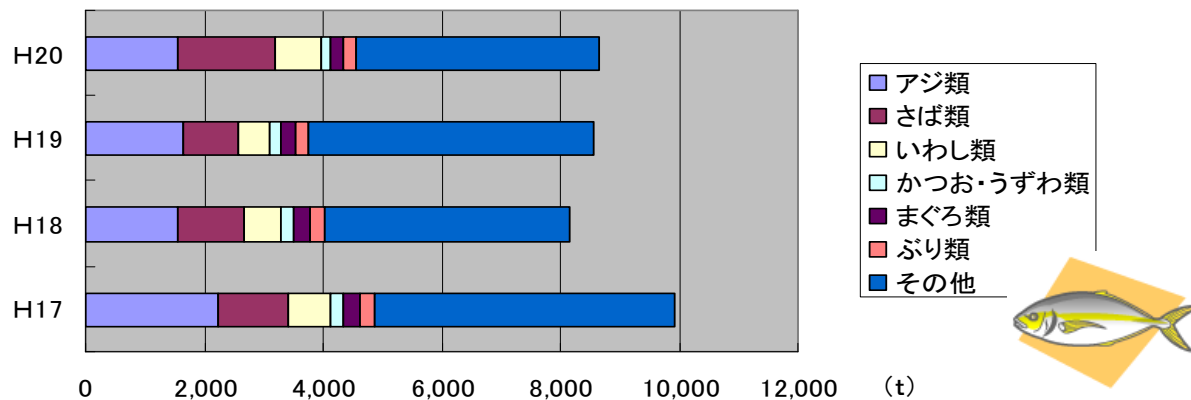


出典：平成17年度 農林業センサス

別表 2

小田原は昔から相模湾西部の漁業の中心地として栄え、海の幸に恵まれてきました。中でも全国的に有名なものが定置網漁業です。小田原の海域は急深な地形であり、岸から沖へ 1,500 メートルも離れれば水深が 200 メートルに達するほどです。このため、この深い海底地形に適した定置網が発達してきました。

○ 小田原市公設水産地方卸売市場での主な取扱数量

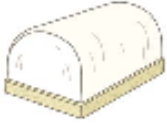


出典：小田原市水産海浜課

小田原の伝統食品のあれこれ

小田原は、豊かな自然に恵まれた神奈川県西の中心都市です。古くから、多くの人々が往来し、さまざまな文化の交流が行われてきました。そのような自然と歴史の中で育まれた小田原の伝統食品は全国的にも有名です。

かまぼこ



小田原かまぼこの起源は江戸後期の天明年間にさかのぼります。江戸日本橋から小田原に移り住んだ職人により、相模湾で獲れるオキギスを原料に、板かまぼこを完成させました。東海道の要所を占める城下町にして、箱根水系の良質な水処であり、豊富な水揚げを誇る港町であったことから、小田原かまぼこは全国に広まりました。現在では、グチなどの魚と良質な水を原料に、肌ツヤよく、きめの細かい、弾力ある歯ごたえの小田原かまぼこが作られています。

梅干し

江戸時代のころ、国府津から二宮にかけての海岸一帯には見事な塩田が広がっており、ここから採れる塩が小田原の漬物の生産を支えてきました。

小田原の漬物といえば梅干しが有名ですが、戦国時代、梅干しの薬効と腐敗防止作用に目を付け軍用として梅干し作りを奨励した北条氏がその基となりました。

温暖な気候と豊富な梅、そして海の恩恵の塩、小田原の豊かな土地柄から生まれたものです。

ひもの



江戸時代、とれたてのアジやカマスを開き干しにして保存食として売ったのが始まりとされています。もともと漁獲量の多かった小田原では、魚の仲買業の副業として干物づくりが発達しました。

魚本来の味を引き出すうす塩づくりにこだわり、店舗ごとに独自の味つけがあり、素材の魚の脂ののり方によっても、微妙に変化させているそうです。

別表 3

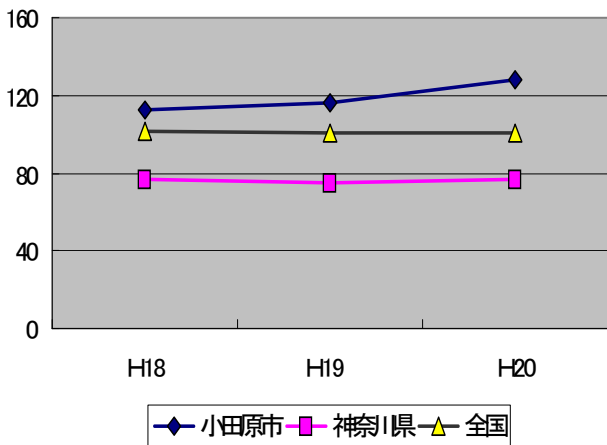
(3) 肥満をはじめとした生活習慣病の増加

活力に満ちた長寿社会を実現するためには、早期から生活習慣病予防の対策が必要です。

子どもの肥満の増加、生活習慣病の若年化に見られるように食生活の変化が深刻な社会問題となっています。

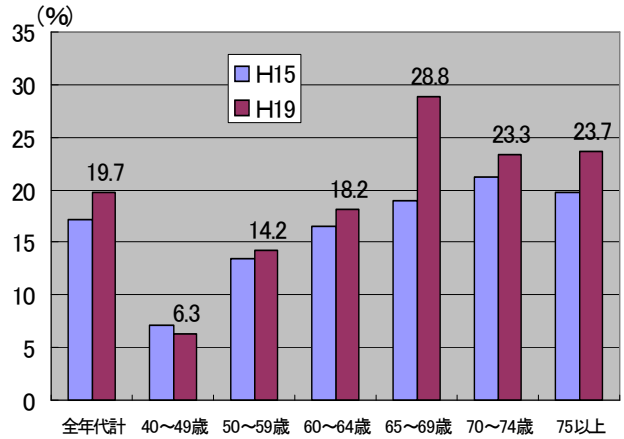
子どもの正しい食習慣、望ましい生活習慣を整えることが大切です。生活習慣病の予防や治療のためには、食事や運動・休養といった望ましい生活習慣の確立が大切です。

○ 小田原市の脳血管疾患死亡率（10万対）



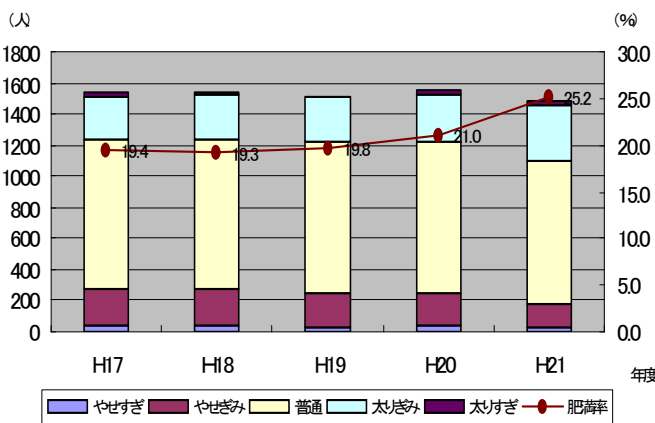
出典：人口動態統計

○ 基本健康診査結果による糖尿病所見者率

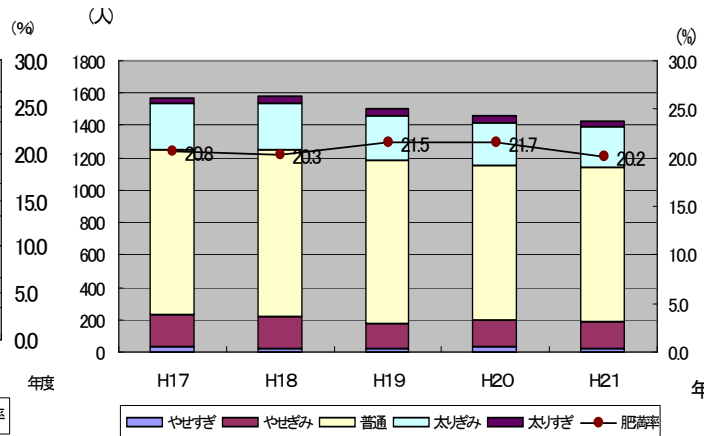


出典：小田原市基本健康診査

○ 1歳6ヶ月児健康診査時の肥満率



○ 3歳児健康診査時の肥満率



出典：平成21年度 母子保健統計報告

別表 4

(4) 食料自給率の低下と食の安全

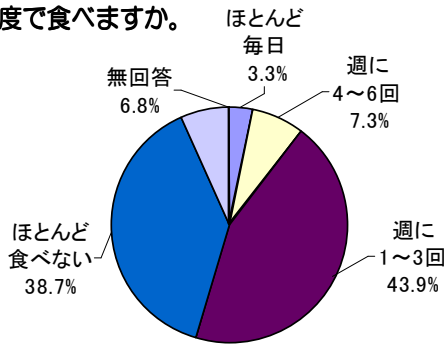
きわめて低い食料自給率は、食の安全に対する不安を募らせる大きな要因です。小田原は、農業・漁業に恵まれています。農家数・耕地面積は毎年減少しています。

また、生活スタイルの多様化により、外食や食事をコンビニ弁当やファーストフードで済ませる人の割合も増えており、材料の産地がわからなくなっています。

地域の産物を知り、日常の生活に取り入れ、生産者と消費者のお互いの顔が見える関係を作ることはより地域に親しみをもち、食の安全・安心などの意識を高めることにつながります。

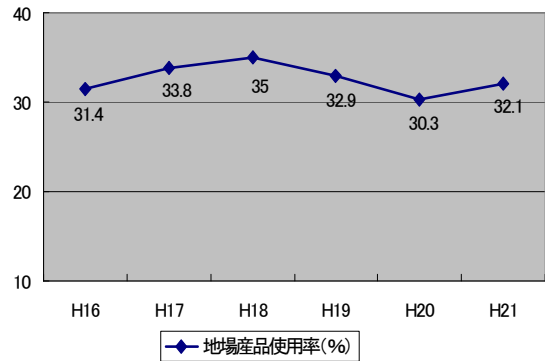
市民が地産地消に対する理解を深めることができるよう、地域の物産を味わう機会や生産の現場を体験する機会を継続的に提供することが重要です。

○ 食事としてスーパーやコンビニで惣菜類や弁当類、調理済みのパンなどをどれくらいの頻度で食べますか。



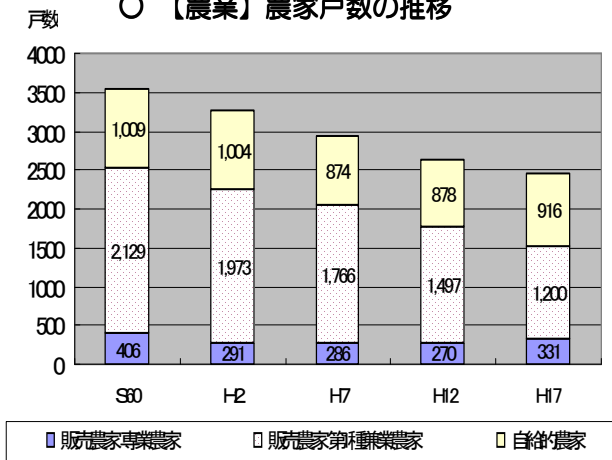
出典：平成21年度 小田原市健康と食に関する意識調査

○ 学校給食における県内地場産品（生鮮食料品）使用率



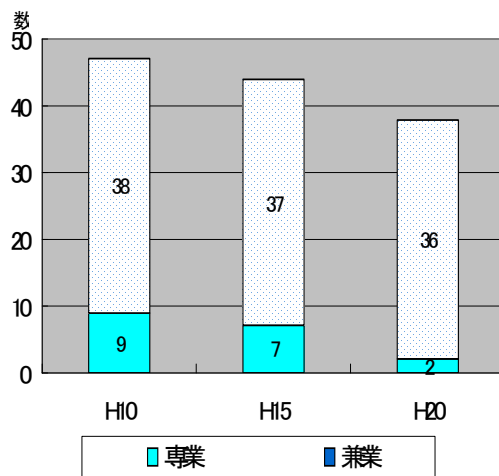
出典：平成20年度 小田原市環境基本計画・年次報告書

○ 【農業】農家戸数の推移



出典：平成17年度 農林業センサス

○ 【漁業】専業・兼業別個人漁業経営対数



出典：平成20年度 漁業センサス

別表 5

3 計画指標

目標1 健康に配慮した食習慣を身につける

指標		参考現状値	目標値(28年度)
毎日朝食をとる市民の割合	小学生	86.1%	95.0%以上
	中学生	79.0%	
	20歳以上の男女	80.6%	85.0%以上

【出典】平成21年度 全国学力・学習状況調査(小田原市)(小学生・中学生)

【出典】平成21年度 小田原市健康と食に関する意識調査

※市内在住の満20歳以上の男女851人を対象に実施。

目標2 バランスよく食べる

指標	参考現状値	目標値(28年度)
栄養のバランスを考えて食事をとる市民の割合(注1)	40.3%	75.0%以上

【出典】平成21年度 小田原市健康と食に関する意識調査

目標3 食の安全・安心について理解を深める

指標	参考現状値	目標値(28年度)
食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合(注2)	63.4%	75.0%以上

【出典】平成21年度 小田原市健康と食に関する意識調査

目標4 食べ物を大切にすることを育む

指標	参考現状値	目標値(28年度)
日ごろから「もったいない」と感じる市民の割合(注3)	58.3%	90.0%以上

【出典】平成21年度 小田原市健康と食に関する意識調査

目標5 市民・団体・行政が一体となって食育を推進する

指標	参考現状値	目標値(28年度)
食育に関心をもっている市民の割合(注4)	77.6%	90.0%以上

【出典】平成21年度 小田原市健康と食に関する意識調査

(注1)「栄養のバランスを考えて食事をとる市民」とは、「考えて食べている」と答えた人のみをいう。

(注2)「食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民」とは、「十分あると思う」「ある程度あると思う」と答えた人をいう。

(注3)「日ごろから「もったいない」と感じる市民」とは、「いつも感じている」と答えた人をいう。

(注4)「食育に関心をもっている市民」とは、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた人をいう。

施策2 学校、保育所等における食育の推進

家庭や地域と連携し、学校、保育所等における子どもの健全な食生活の実現と心身の成長を図ります。

取組ア 学校における食育の推進

● 食に関する指導内容を充実した学校づくり（未来につながる学校づくり推進事業）

子どもの学びと育ちを地域ぐるみで支えていく学校づくりをめざして、小田原の良さを活用した特色ある学校づくりを推進していく中において、食育への取組を重点項目に掲げ、子どもの食に対する正しい知識と実践力を養っていきます。

＜生産活動からつながる食の活動＞

- ・ 学校農園による栽培活動や農業体験～稲作や畑作（野菜作り、そば作り）等を通して、生産活動の楽しさや苦勞、工夫の大切さに気づかせ、感謝の心を育てます。
- ・ 収穫の喜びを味わう～餅つき、芋煮会等を行い、収穫したものを調理し、味わうとともに、お世話になった人との交流を行います。
- ・ バスケット栽培などの生産方法の工夫体験。



バスケット（買い物かご）を活用した野菜の栽培体験をする中学生

＜地域の産物と人材の活用＞

- ・ 梅ジュース、梅ジャム作り
- ・ かまぼこ作り体験
- ・ 地域の人材を活用した農業体験

● 食育年間指導計画の作成

学校教育活動全体を通じた食育を推進するため、給食指導と教科等を含めた食育年間指導計画を作成します。（平成24年までに全学校で作成）

● 学校栄養職員・栄養教諭を中心とした、学校・家庭・地域への食育啓発

学校栄養職員・栄養教諭が、食に関する年間指導計画に基づき、教科等と関連した食育授業を通して、正しい食生活習慣の育成を図るとともに、保護者を対象とした給食試食会・学校保健委員会などの各種行事や給食だよりを通して家庭や地域に向けて食育を啓発します。また、学校給食が授業の生きた教材として活用できるよう献立を工夫します。

肥満等の個別指導や栄養相談などマニュアルを活用して、各学校で検討委員会を設置し、学校の実情に添った個別の対応に努めています。学校と家庭との連絡を密にすることにより、除去食等の対応も実施します。

小・中学校の保護者を対象にした給食試食会の様子です。

学校栄養職員・栄養教諭による食育講話も行われています。



給食試食風景



栄養士講話風景

食に関する指導・授業

学校栄養職員、栄養教諭による食に関する指導・授業の様子です。

年間指導計画を作成し、教科等と関連した授業を行います。また、生きた教材として給食を活用しています。



取組イ 学校給食を活用した食育の推進

● 地場産物を利用した学校給食の実施

地元の農産物（たまねぎ、さといも、みかん、キウイ、ほうれん草、小松菜など）や水産物（アジ、かます、その他大量に漁獲された魚、かまぼこ製品）を積極的に給食に利用するとともに、小田原献立やかながわ産品学校給食デー、かまぼこ献立を実施し、児童生徒に生きた教材として学校給食を活用しています。

学校給食食育講演会や学校給食展を開催し、成長期を中心にした食生活に関する正しい知識の普及活動を行うほか、地元の食材を使った親子料理教室を開催し郷土を愛し、食育を実践していく子どもや家庭の健康づくりを推進します。

別表 8

● 特定保健指導の実施

40歳から74歳までの小田原市国民健康保険加入者の方を対象に、生活習慣病を予防するために、健診の結果に基づき必要に応じて、医師・保健師・管理栄養士などが、受診者に生活習慣における改善の支援・アドバイスを行います。

● 食や健康に関するイベントの開催

行政や関係団体などが一体となり、健康チェックや個別相談、情報提供、調理実習などを行うイベントを開催し、市民の健康に対する意識の高揚を図ります。

◆小田原栄養士会による栄養相談



取組イ 食に関する普及啓発

● 食や健康づくりに関わるボランティア団体などの養成と活動支援

地域に根ざした活動をしている食生活改善推進員（ヘルスマイト）や健康おだわら普及員などのボランティアの養成、資質向上のための研修を実施しています。また団体の活動を支援します。

● 地区栄養教室や減塩味噌汁試飲会などの実施

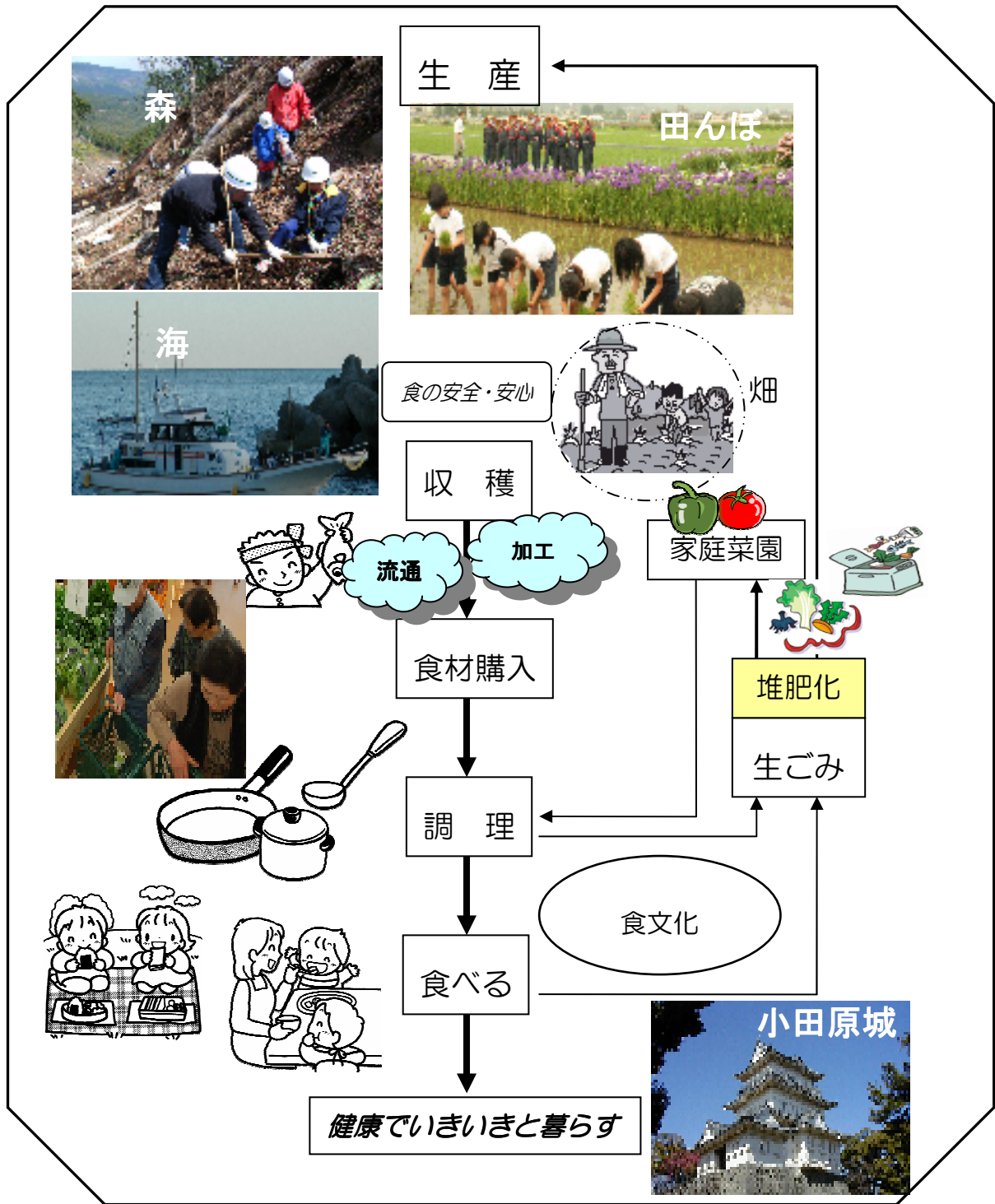
健康おだわら普及員の健康づくり運動実践活動事業の一環として、地区に応じて栄養教室（調理実習）や減塩味噌汁試飲会を実施します。



住民のかたに、減塩味噌汁を試飲してもらいました。
「普段飲んでいる味噌汁とどちらが濃いですか？
この位の濃さが良いですよ！」

別表 9

生産からつながる食 イメージ図



私たちが「いただきます」と口に運ぶ食べ物は、どこからきて、どこへいくのでしょうか？ 食べるということは、地域や環境を含めたさまざまなつながりと広がりをもった行動です。食べ物は、森や海、田んぼや畑などで生産され、流通、販売、調理されます。食べることで健康な心身をつくります。そして自然に次の生産活動に働きかける循環性をもっています。

別表 10

● 地場産の魚を使った料理教室の開催

一般の男性を対象に、小田原産の魚を使った料理教室を開催しています。魚のさばき方を学びながら、簡単にできる料理に挑戦してもらい、できたものを実際に食べてもらって、魚食について親しんでもらっています。

● イベントや品評会の開催（再掲）

消費者への農林水産物や地場農産物を使った加工品のPR、及び、農水産物の優良な品種の育成及び栽培技術・品質の向上を目的とし、イベントや品評会を開催し、かつ地産地消を推進します。

<事業例>

- ◆おでんサミット・おでん祭り
- ◆小田原城名物市



- ◆「小田原どん」事業



小田原おでんやかまぼこドック、梅干し、ひものなど小田原自慢の名産品の販売を行っています。

- ◆農業まつり（再掲）
- ◆農産物品評会（再掲）
- ◆小田原市農産物加工品普及推進事業（再掲）

- ◆かまぼこ桜まつり



● 地域産物のPR事業

市内の農水産物や地場加工品を市内外に広くPRするとともに、小田原のブランドイメージの向上を図ります。また、農産物の計画的な生産出荷を推進し、PR事業等により農産物の消費拡大・販売促進を目指します。

小田原の持つ自然、歴史、文化、そこから生み出される特産品。その特徴を生かした「小田原ブランド」の確立を進めることによって、地域と特産品のブランド力の相乗効果による地域の振興を目指します。

V 計画推進

1 周知

小田原市食育推進計画を推進していくためには、市民が計画の内容を理解し参加していただくことが大切です。そのために、広報誌やホームページへの掲載、ダイジェスト版の作成・活用等多くの機会を通じて本計画を周知し、市民の食育に対する意識を高めていきます。

2 推進体制

本計画は、すべての市民を対象とするものであり、総合的かつ計画的に推進するために、市の関係部署だけでなく様々な分野の関係者間で連携を図り、それぞれの特性を生かして街ぐるみで食育に取り組んでいくことが重要です。

家庭はもちろん、地域、職域、保育所等・幼稚園・学校、生産・流通・販売等の関係機関、地域活動団体等が協働し、食育を推進していきます。

3 進行管理

本計画に基づく食育の取り組み状況や目標値については、(仮称)小田原市食育推進会議、食育推進のための庁内連絡会等においてその内容の検討並びに評価を行い、計画の適切な進行管理に努めます。

そのため、計画の進捗状況や社会情勢の変化や国の動向等によっては、計画期間中においても必要に応じて見直しを行うこととします。